

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 元年 9 月 4 日現在

機関番号：20101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K11853

研究課題名(和文) 子ども虐待予防を重視した妊娠期に必要な父親のコンピテンシー構造化と支援プログラム

研究課題名(英文) The father competencies and support program required during the prenatal period to prevent child abuse and neglect

研究代表者

上田 泉 (Ueda, Izumi)

札幌医科大学・保健医療学部・教授

研究者番号：90431311

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：日本における児童虐待の問題は深刻な社会の問題である。日本では、マタニティクラスは自由意思による参加であるため、父親の参加は限られている。今回の研究結果として、妊娠期に求められている父親の役割と能力は、知識と行動、父親役割の理解、夫婦関係の醸成などであった。これらの能力を父親が獲得するためには、妊娠期に父親支援が必要である。これらの能力を獲得するベースとなる共感力を高めることが最も重要であると私たちは考える。パンフレットやインターネットからの情報の提供だけでなく、父親自身が参加の主演として、ワークショップなどの体験型参加学習に参加することが望ましい。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の特色は子ども虐待予防を重視したポピュレーションアプローチである点である。日本では妊娠期に、母子保健事業あるいは医療機関での支援は母親中心に実施されており、父親の参加は限られている。妊娠期に母親だけでなく子ども虐待予防を目指した父親支援という点を考慮することに特徴がある。父親は母親をサポートするために育児に対する理解、育児方法を習得することに重点をおくのではなく、関係構築に重点をおいていくことが必要である。父親を支援すること、つまりは家族支援につながり子ども虐待予防に寄与できると考える。

研究成果の概要(英文)：The problem of child abuse and neglect is a serious societal issue in Japan. In Japan, the maternity classes for prospective fathers and mothers is voluntary, and participation of fathers is limited. As a result, the roles and abilities required of fathers during the prenatal period were 'Knowledge and action for the child care', 'Understanding of roles of the father', and 'Strength of the marital partnership'. It is necessary to provide support for fathers to acquire these abilities during the prenatal period. We assume it most important for fathers to improve in the empathy that is essential to acquire these abilities. It is effective to have fathers themselves participate in learning opportunities such as workshops, as well as to provide information using brochures and the Internet.

研究分野：地域看護

キーワード：子ども虐待 父親支援 支援プログラム 妊娠期 コンピテンシー

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究の学術的背景

わが国の児童虐待による死亡事例等の検証結果(社会保障審議会)報告により、全事例の死亡状況の概要が明らかとなっている。主たる加害者は実母が最も多いが、次いで実父が多く、数は少ないが母の交際相手、継父、養父等も挙げられている。児童虐待の予防には、父親あるいは父親代わりの男性にも着目していく必要がある。また、同上報告による虐待事例の死亡した子どもの年齢は0歳児が43.1%と最も多く、0~2歳までが約7割を占める。虐待予防の観点から、乳児期は特に重要な時期であり、早期に虐待を予防するための支援の必要性は高い。乳児期における子ども虐待死を防ぐためには、子どもが生まれる前、つまり妊娠期の支援が特に重要である。わが国の妊娠期の母子保健事業として、母子健康手帳の交付時面接、妊婦対象の家庭訪問、母親あるいは両親教室などが市町村の保健師により実施されている。妊娠期に、父親が支援を受ける機会は両親教室などに限られている。さらに、教室は自主参加であるため、参加できる力のある父親が主に参加している。つまり、支援の必要な父親の参加は非常に少ないと推察される。また、教室の目的は、父親の育児参加や新生児ケアの習得、妊婦疑似体験や沐浴などで、母親の育児をサポートし技術を身につけるといった内容が多く、虐待予防を教室の目的にあげている教室は少ない。現状では、妊娠期において父親が受ける支援の機会は限られており、内容も母親をサポートするという母親中心の支援内容である。

(2) 国内外の研究の動向

国内において、子ども虐待予防という視点の周産期における研究では、母親への支援プログラム、関係機関連携等の研究が取り組まれている。妊娠期の父親に対する支援の研究は数少なく、両親教室を活用したもの、自治体やNPOによる親学び支援プログラムの実践報告が行われている。これは子ども虐待予防に特化したものではなく、支援内容は、子育てに関する知識、子どもの成長に応じて学ぶ内容が中心である。課題として、子育て知識の学習よりも前に親が社会のルール、しつけを学ぶ必要があり、親自身の根本的な人としての成長を促す支援の重要性が指摘されている。一方、国外では、児童虐待リスク予測についての父親と母親の比較研究、父親役割に関する研究等、児童虐待予防のため父親そのものに焦点をあてた研究が進んでいる。また、前向き子育てプログラム(トリプルP)、カナダオンタリオ州の父親支援プロジェクト等、父親全般、DV及び虐待者、10代の親を対象とした様々なプログラムが開発されている。これらのプログラムは、父親の親役割や子どもの発達や安全を守る能力育成等が支援内容であり、段階的に支援することが重視されている。国外の妊娠期のアプローチに関する研究では、家庭訪問もしくは医療機関での両親教室が主な方法であった。母親のみならず父親も対象としており、プログラムの時間・回数は2~3時間・3~10回とプログラムにより幅があった。介入研究により効果を評価しており、プログラムの評価は、未熟児の出産率、低出生体重児の出生率、児が10ヶ月時の親子関係評価-子どもの出すサインへの感受性等であった。妊娠期の父親への教育が重要であり、子ども虐待予防に効果があると指摘している。プログラム内容は、親となることの知識・スキルと同様に、他の親や自分の家族との関係を構築し、感受性のある親になることをすすめるプログラムであることが特徴である。

2. 研究の目的

子ども虐待予防を重視した妊娠期における父親が必要なコンピテンシ - , 父親への支援ニーズを明らかにする。妊娠期における父親が必要なコンピテンシ - , 父親への支援方法及び内容を分析し、虐待予防の視点での支援プログラムを検討する。

3. 研究の方法

(1)文献検討及び全国の父親支援の実態調査、妊娠期の両親および虐待支援経験のある熟練保健師への面接調査により、子ども虐待予防を重視した妊娠期における父親が必要なコンピテンシ - , 父親への支援ニーズを明らかにする。

(2)国外の先駆的地域の視察調査により妊娠期における父親が必要なコンピテンシ - , 父親への支援方法及び内容を分析し、虐待予防の視点での支援プログラムを検討する。

(3)上記の結果を統合し、子ども虐待予防のための父親への妊娠期における父親が必要なコンピテンシ - を構造化する。

4. 研究成果

(1)著者らは、妊娠期に求められる父親の役割について文献検討を行った結果、父親役割は「知識と行動」「共感力」「夫婦関係の醸成」等であった。また、育児期に求められる父親の役割はどのような内容なのか明らかにすることを目的に文献検討を実施した。医中誌Webを用いて過去10年間(~2016年)「妊娠/出産/育児/子育て」と「父親/夫」をキーワードに、原著、看護文献で文献検索を行った。その内、重複文献、父親/夫の記載なしを除き入手可能な226文献を抽出した。妊娠期37件、出産期42件、育児期119件、その他28件に分類した。育児期119件の抄録を読み、疾患あるいは障害児、NICU等の特定な状況を対象とした文献は除外し、計58文献を検討した。研究対象は、乳児期18件、1~6歳32件、小中学3件、その他5件であった。方法は、量的調査45件、質的調査7件、量的及び尿検査1件、問診票分析が1件であった。内容は、父親の育児行動に関する19件、母親の育児不安に関する11件、父親の行動と母親の育

児に関する 19 件、両親の育児行動 5 件、その他 4 件であった。結果の記述を熟読し、テーマに沿って抽出し意味内容を損なわないようコードとした。抽象度を挙げサブカテゴリー、カテゴリー化した。育児期に求められる父親の役割は、「良好な夫婦関係・家族関係を構築する」「夫婦で共にするものという意識をもち積極的に家事・育児をする」「父親としての自覚と子どもへの愛着をもつ」「母親の精神的支えとなり解放する時間がもてるようサポートする」であった。妊娠期と育児期の文献検討の結果は近似していた。父親役割として、妊娠期は共感力が、育児期は母親への積極的なサポート力が必要である。夫婦の関係構築が妊娠期から特に重要な課題である。

(2) 全国の父親支援の実態調査、妊娠期の両親および虐待支援経験のある熟練保健師への面接調査を実施した。子ども虐待予防を重視した妊娠期における父親が必要なコンピテンシ - は、

父親役割の認識父親としての自覚と責任 - 家事の自分の役割を認識することが含まれた。知識と行動の獲得 - 妊娠・出産・産後の母親について学び、産前産後に必要な諸手続きについて学ぶことが含まれた。夫婦関係の醸成 - 夫婦間のコミュニケーションをはかり、信頼関係を築くこと、妊娠・出産に関する夫婦の意思決定が含まれた。共感力の向上 - 母親への気遣い、労りの気持ちをもつ、母子への関心を表出することが含まれた。周囲の人との関係構築 - 自分の親、他の人からのサポートを求めることが含まれた。

(3) 父親支援プログラム開発を目指して支援内容について検討した。夫婦の関係を強くするためには、コミュニケーションの練習、話し手テクニック、聞き手テクニック、建設的に不満を言ったり、相手をほめたりする方法が考えられる。夫婦関係を築くための基本的なルール、方法について検討することが必要である。共感力を向上するためには、夫婦間で理解しあったりする方法・怒りのコントロールを学ぶことが必要である。夫婦で楽しく過ごし友情を持ち続ける方法について話し合うなど体験型の学習プログラムが有効である。



5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 4 件)

上田泉 岡田尚美 岡崎まどか 平野美千代 河原田まり子 佐伯和子、日本の文献検討による育児期に求められる父親の役割、第 24 回日本子ども虐待防止学会、2018 年

Izumi Ueda, Naomi Okada, Madoka Okazaki, Michiyo Hirano, Kazuko Saeki, Mariko Kawaharada, The father competencies and supports required during the prenatal period, The World Congress on Nursing & Healthcare, 2018 .

Naomi Okada, Izumi Ueda, Madoka Okazaki, Michiyo Hirano, Kazuko Saeki, Mariko Kawaharada, Competency required of fathers during the pregnancy of their wives to avoid child abuse-perceptions of experienced public health nurses, The World Congress on Nursing & Healthcare, 2018 .

Izumi Ueda, Naomi Okada, Madoka Yokoyama, Michiyo Hirano, Kazuko Saeki and Mariko Kawaharada, A literature review of father competencies required during the prenatal period, 37th ASIA-PACIFIC Nursing and Medicare Summit, 2017 .

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

取得状況（計0件）

〔その他〕

ホームページ等

なし

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：佐伯 和子

ローマ字氏名：(Saeki, Kazuko)

所属研究機関名：北海道大学

部局名：保健科学研究院

職名：教授

研究者番号（8桁）：2 0 2 6 4 5 4 1

研究分担者氏名：横山 まどか

ローマ字氏名：(Yokoyama, Madoka)

所属研究機関名：札幌医科大学

部局名：保健医療学部

職名：助教

研究者番号（8桁）：3 0 7 3 7 5 0 7

研究分担者氏名：河原田 まり子

ローマ字氏名：(Kawaharada, Mariko)

所属研究機関名：北海道科学大学

部局名：保健医療学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：9 0 3 7 4 2 7 2

研究分担者氏名：岡田 尚美

ローマ字氏名：(Okada, Naomi)

所属研究機関名：日本医療大学

部局名：保健医療学部

職名：講師

研究者番号（8桁）：0 0 5 1 5 7 8 6

研究分担者氏名：平野 美千代

ローマ字氏名：(Hirano, Michiyo)

所属研究機関名：北海道大学

部局名：保健科学研究院

職名：准教授

研究者番号（8桁）：5 0 4 6 6 4 4 7

(2)研究協力者

なし

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。